

徳くほ報

No. 5 5

発行

令和4年5月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

[tokusenji.send](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

[sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

研修のご報告

真宗大谷派仙台教区(岩手・宮城・福島)の社会部が主催した一泊二日の研修会に坊守が参加してきました。そこで見聞きし、感じたことをご報告させていただきます。

「福島県浪江町周辺を訪ねる」に参加しました

(4月27日 研修一日目)

福島県福島第一原子力発電所周辺の浪江町、双葉町、大熊町には真宗大谷派の寺院がそれぞれ一軒ずつありました。

まず訪れたのは、浪江町正西寺。除染を繰り返し、やっと住めるようになったのは最近のこと。内部も地震と放射能汚染からの修復を得てよみがえっています。伊達政宗公も宿泊されたことのある由緒あるお寺で、珍しい木彫りの親鸞聖人・蓮如上人の絵像があります。

ここでは町内で稲作を再開されている総代さんに震災当初からのお話を聞くことができました。

「やっぱ農業が好きなんだ。私は稲の言ってることがわかるんですよ。」と話された笑顔が印象的でした。ご苦労もたくさんされて来られたことと思いますが、その笑顔に命が輝く瞬間を見せていただいたような気がします。

その後訪れたのは請戸小学校。福島第一原発から直線距離で8キロほど、海岸からもすぐの小学校です。地震直後11キロ離れた小さな山まで児童職員全員歩いて避難したそう。生々しい津波被害の状態がそのまま残され、黒板には自衛隊員はじめ、ここを訪れることができた方々のメッセージが残されていました。



(4月28日 研修二日目)

双葉町「正福寺」と富岡町「西願寺」。この二ヶ寺は取り壊しを余儀なくされてきました。正福寺さんのあつた辺りは双葉町の再開発の中心地になるそう。既に須賀川市に仮御堂を再建され、そちらに本拠地を移されたそうです。西願寺さんは二年後に、元の場所に再建することを目指して除染及び整備を進めていらっしやいました。富岡町はまだ帰宅困難域もあり、放射線量も場所によっては高いところがあります。なかなか厳しい現実です。

その後訪れた「東北電力廃炉資料館」では今回の事故の経緯から現状、今後の廃炉に至るまでの見通しなどが丁寧に科学的に説明されていました。今まで断片的に情報を収集していた原子力発電のことや事故のことが、私としてはわかりやすく理解できて頭のなかでパズルの答え合わせがされているようでした。まだまだ廃炉には時間がかかり、溶けてしまった放射性物質デブリの取りだしには何世代もかかるそうです。そこで働く方々にも頭の下がる思いがしました。

東日本大震災から十一年を過ぎ、仙台市近辺では復興が進んでいますが、福島第一原発周辺は長い間立ち入ることさえできなかった場所です。まだまだあの時のまま時が止まったような場所があちこち見受けられ心が痛みました。

それでも二階の窓から第一原発の煙突が見える場所に、たったの十一年で訪れることができるようになるのは、震災直後正西寺の坊守さん「生きていくうちに帰れるとは思えない。」

とおっしゃっていた言葉が思い出され、ここまで来るのにどれだけの方々のどれだけの尽力があったのだらうと思われました。

「たとえ故郷に住むことができなくても、お墓とお寺があることでそこに帰ってこられる。」そういう、門徒さんの思いに支えられて今がある、とおっしゃっていたご住職の言葉を噛みしめ、帰宅の徒につきましました。

